

都市再生整備計画 事後評価シート
大月駅周辺地区

平成24年3月

山梨県大月市

様式2-1 評価結果のまとめ

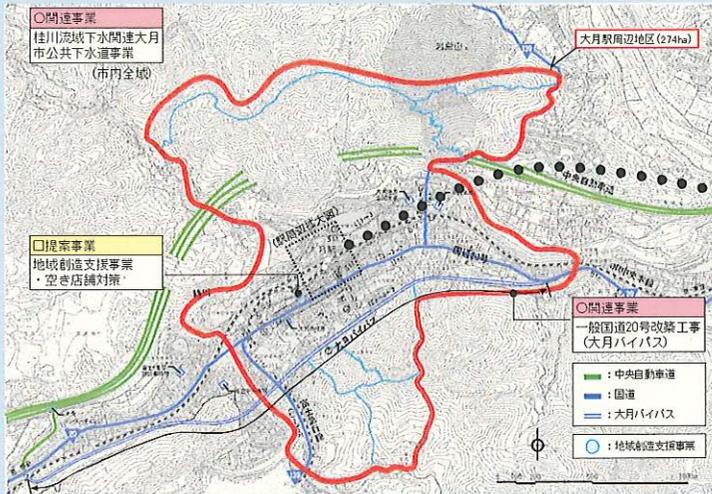
都道府県名	山梨県	市町村名	大月市	地区名	大月駅周辺地区			面積	274ha	
交付期間	平成19年度～平成23年度	事後評価実施時期	平成23年度	交付対象事業費	2,090百万円	国費率	0.399			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業 道路:都計道大月駅前通線(南口駅前広場)・市道大月駅前通線・市道駒橋栄町線・市道大月賑岡線・市道駒橋栄町支線 地域創造支援事業:防犯カメラ・踏切安全対策・空き店舗対策 事業活用調査:駅前ファサード計画策定 まちづくり活動推進事業:まちづくり推進検討委員会 提案事業	事業名	事業名			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
	当初計画から削除した事業	基幹事業 道路:市道大月駅北口線・市道大月駅北口線(駅前広場)・市道大月駅北口支線 地域生活基盤施設:市営駐車場・市営駐輪場・案内板・耐震性貯水槽・コインパーキング 高質空間形成施設:大屋根(シェルター) 高次都市施設:南北自由通路 提案事業 地域創造支援事業:大月駅駅舎改築事業(橋上駅舎化負担金)・ファサード整備・交流拠点整備・踏切安全対策・登山路の整備	削除/追加の理由	優先順位見直しに伴う、事業の削除			●道路・高質空間形成施設・高次都市施設・地域生活基盤施設(耐震性貯水槽):目標2に関連するが目標及び指標は据え置く。 ●地域生活基盤施設(市営駐車場・市営駐輪場・案内板・コインパーキング):目標1に関連するが、目標及び指標は据え置く。			
	新たに追加した事業	基幹事業 高質空間形成施設:公衆用トイレ 高次都市施設:観光案内所 提案事業 事業活用調査:事業評価調査	削除/追加の理由	優先順位見直しに伴う、事業の追加			●地域創造支援事業(大月駅駅舎改築事業(橋上駅舎化負担金)・ファサード整備・踏切安全対策):目標1に関連するが、目標及び指標は据え置く。 ●地域創造支援事業(ファサード整備・交流拠点整備・登山路の整備):目標2に関連するが、目標及び指標は据え置く。			
	交付期間の変更	当初 変更	- -	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	事後評価作業実施のため追加			影響なし		
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値	数値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	駅利用者数(乗車人員)	人/日	7,181	H17 7,540 H23	6,054	×	あり	事業の一部が凍結・縮小での実施という判断になり、目標達成にあたって大きな障害となってしまうことや、高速道路休日1000円の影響もあり、目標達成には至らなかったが、社会実験の実施等をきっかけに、地元のまちづくりの機運が高まったことは評価できる。	平成24年12月
	指標2	歩行環境の満足度	%	3.7	H18 50.0 H23	68.9	○	あり	道路整備などで安心安全に歩行できる空間が整備された、歩行環境の満足度が向上した。今後より一層歩行環境の満足度を高めるために引き続き取り組む。	平成24年12月
	指標3	住民参加のイベント等参加者数	人/年	18,600	H17 25,000 H23	60,700	○	あり	社会実験のイベントなどにより来訪者数が増加し、駅前に活力を呼び込めた。また、準備の過程を通じて、主体的に考え取り組む地元の意欲が強くなったことは評価できる。	平成24年12月
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	目標値	数値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	「駅前広場の交通施設の安全性向上」の評価点	点	3.0	H18	4.00			駅前広場周辺整備により、歩行者・車両双方にとって安全性が高まったことが評価できる。今後は一層の交通施設の安全性向上に取り組む。	平成24年12月
	その他の数値指標2	「駅周辺のバリアフリー状況」の評価点	点	3.0	H18	3.87			歩行者、特に高齢者やハンディキャップのある方などの安心安全な歩行空間が確保できた。今後よりバリアフリー整備に資する事業の実施に向け取り組む。	平成24年12月
	その他の数値指標3	「駅周辺整備による景観向上」の評価点	点	3.0	H18	3.96			ゆとりとるおいのある空間が確保されたと同時に、策定作業を通じて地元が景観について考えるきっかけが今後のまちづくりを進めていく上で収穫となった。	平成24年12月
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 社会実験(おもてなしストリート事業)による大月駅前や商店街等へのベンチの設置により、住民からバスの待ち時間や買い物途中に休憩できることができるようになり、便利になったと喜ばれている。 社会実験(駅前夕市事業)での夕やけ市のイベント実施後も住民から継続して実施したいという意向があり、今年度内は当初のイベント予定回数実施後も住民主体で夕やけ市を実施することになり、住民自ら街を活性化していく動きが出ている。 社会実験(駅前夕市事業)で実施した軽トラ市について、「次回はいつ実施するのか」「どこで実施するのか」「継続的に実施したほうが良い」といった声が寄せられている。 									
5)実施過程の評価	実施内容	実施状況			今後の対応方針等					
	モニタリング	まちづくり検討推進会議の実施による、大月駅周辺のまちづくりの進捗状況の確認	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● 今後も引き続きまちづくりに係る各種事業を実施する際にはモニタリングを実施し、事業監理に務める。				
	住民参加プロセス	まちづくり推進検討委員会が実施した、大月駅周辺における交流イベントの開催	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● 今後もまちづくりに地元住民を巻き込んで取り組んでいく。				
持続的なまちづくり体制の構築	地元商店街代表者、消費者、行政関係者等からなる「まちづくり協議会」を設立する	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● これからは住民が主体となってまちづくり協議会を運営していくことになるため、市はその側方支援を実施していく。					

様式2-2 地区の概要

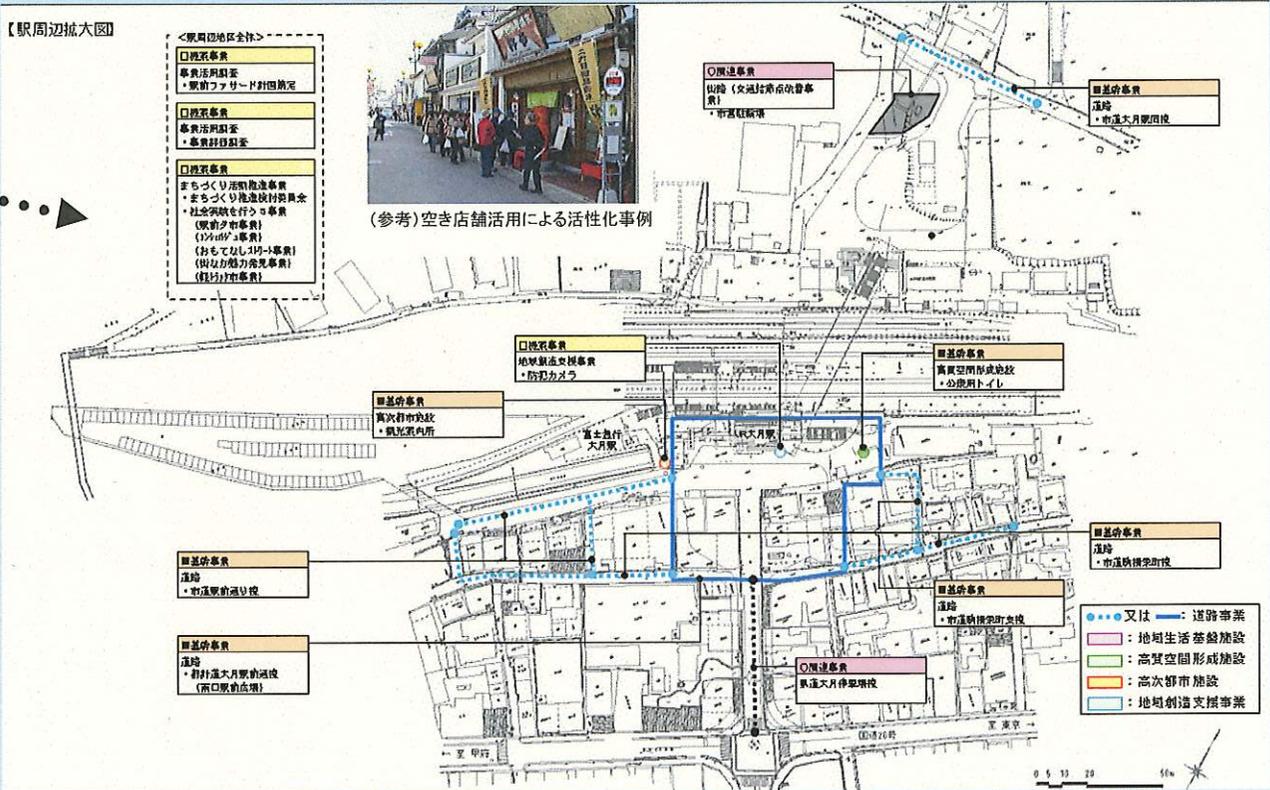
大月駅周辺地区(山梨県大月市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標: 交通結節機能の強化を契機にした、安全・安心で快適な生活環境の創出と中心市街地の活性化	駅利用者(乗車人員) 単位: 人/日	7,181 H17	7,540 H23	6,054 H23
目標1: 駅南北における交通機能の新設・改善と南北の連絡機能強化「交通結節機能の強化」	歩行環境の満足度 単位: %	3.7 H18	50.0 H23	68.9 H23
目標2: 活力ある中心市街地の再生に向けた安全・快適な生活環境の創出「安全で快適な交通基盤の整備」	住民参加のイベント等参加者数 単位: 人/年	18,600 H17	25,000 H23	60,700 H23
目標3: 自然と歴史を取り込んだ大月の顔となるまちなみ景観の創出「良好な景観形成」	「駅前広場の交通施設の安全性向上」の評価点 単位: 点	3.0 H18	-	4.00 H23
	「駅周辺のバリアフリー状況」の評価点 単位: 点	3.0 H18	-	3.87 H23
	「駅周辺整備により景観向上」の評価点 単位: 点	3.0 H18	-	3.96 H23

【広域図】



【駅周辺拡大図】



(参考) 空き店舗活用による活性化事例



(提策事業) 軽トラック市事業



(基幹事業) 市道駅前通り線整備箇所

まちの課題の変化

- 駅とバイパスのアクセス等、都市基盤施設の改善が進み、線路南側から駅へのアクセス性が向上したが、南北方向の交流の状況は改善されておらず、駅北側については大月環線の整備などにより導線が生まれているが、駅アクセスは未だ改善の余地がある。また、南北自由通路の整備等、凍結された事業の施行が課題である。
- 民営のコインパーキングの整備が実施された箇所が出るなど、一部土地利用の萌芽が見られるが、駅北側の大規模空閑地の土地利用は未だ促進されておらず、土地利用規制の見直しも進んでいない。
- 駅周辺で安全で安心して利用できる歩行者空間が確保されたが、市民や来街者が滞留できるゆとりある空間が十分とは言えない。
- 駅とバイパスのアクセス等都市基盤施設の改善が進み、線路南側から駅へのアクセス性が向上したが、線路北側からのアクセスは未だ改善しておらず、線路南側は中心市街地として相応しい機能の導入がまだ十分とは言えない。
- 線路南側の地区内歩行環境が改善され、バリアフリー化を進めることが出来たが、未だバリアフリー未対応の道路が存在する。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- 線路南側から駅への良好なアクセス環境の維持のため、南北方向の交流を活性化するための動線の確保・交流のための空間整備を検討する
- 整備された良好な歩行環境を維持するため、適切な維持管理を実施し、今回整備された良好な歩行環境を長く維持する
- 線路を中心とした南北方向の交流の活性化するため、南北方向の交流を活性化するための導線の確保・交流のための空間整備を検討する
- 駅北側の大規模空閑地の土地利用の促進と、土地利用規制の見直しを行い土地利用の促進を図るため、駅北側市街地の将来像を検討するなど、民間活力導入のための方策を検討する
- 市民や来街者が滞留できるゆとりある空間の整備が不十分のため、身近に使える空地等の整備を検討する
- 線路北側からの駅へのアクセス改善のため、鉄路北側から駅へのアクセス改善方策を検討する。また、凍結されている事業の一日も早い施行に向けた検討を行う。
- 地区内のバリアフリー未対応箇所へ対応するため、バリアフリー未対応の道路でも、バリアフリー化の推進を検討する
- 地区内の更なる魅力向上に努め、「コンシェルジュ事業」やJR等が実施するイベント(「駅からハイク」「エキボ」「八駅八山八富士トレッキング」など)とも連携するよう取り組む。